

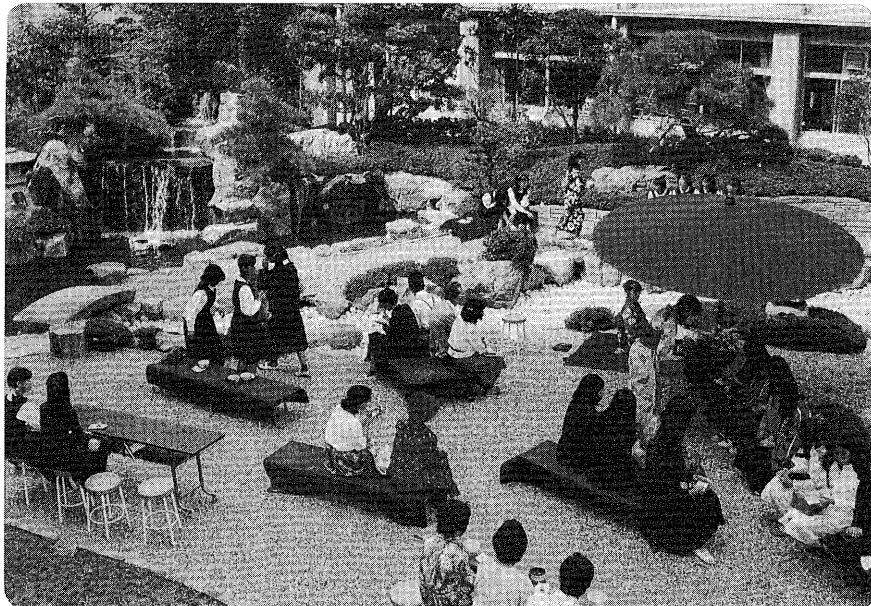
発行所 尚和会  
 発行責任者 (桜塚高等学校同窓会) 鈴鹿常雄  
 編集責任者 高津常雄

# 尚和会会報

## 尚和会総会のご案内

5月15日(日)に母校で開催

総会	12:00~12:30
立食パーティ	13:00~14:30
福引会	豪華賞品
会費	無料



滝の流れる恵風苑で野点をお楽しみ下さい。



# 桜塚高校よ、永遠なれ！

## 五十周年を省みて

実行委員長 谷田探成



人間五十年代転の内を比べれば……と詩った信長の時代からも五十年は区切りある年であった。まして宇宙時代の現代となつても更にその意義は深くなつても變りはしない。

母校創立五十周年は何とか立派に、他校に恥じない、しかも心に残り、いつまでも後輩達に喜んでもらえる事業・行事をやりたいものとの考え方のもとで、校長始め幹部の先生方と一部員で、五十周年を協議し始めたのは、確か六十一年の春先であった。

菊川校長のもと、特に恵風苑先生方と二部員で、五十周年を協議し始めたのは、確か六十一年の春先であった。

菊川校長のもと、特に恵風苑の青写真を何度も見せて頂きました。

詳しい説明を受け、池には水を流すとの構想で、次いで恩露園の整備、更に余裕あれば正面玄関前の庭園の美化、平坦化を希望しておられ、一応の目標事業となつた。ただ学校側としては、記念式典は豊中市民会館にて、生徒を入れて、同窓生一部実行委員と教職員、更に来賓をお呼びして厳粛に催したいとの事で、式終了後までたい日本舞踊を舞うてもらいたい又、バイオリンなどピアノの演奏を現役生及びOB・OG生でやつてもらうとのアイディアが出来上つていた。

片や尚和会としては、記念事業として、母校の庭園整備が決まり、更に永年途絶えていた物故者の慰靈祭を記念行事に加え、且つ六十二年秋には大ホテルを借り切つての大パーティを開く事を決めた。それらの事業・行事遂行の為に、記念募金を徴収、更に記念品を何か考えようという事になつた。

実力あるメンバーの方々に実行委員になって頂き、事業部、記念品誌部、宴会部、総務部と四つの部に分けて細かく念入りに検討して頂いた。

当初記念事業案の中で、尚

和会議室拡張を挙げていたが種々検討の結果、時期尚早という事で、この案は流れた。

又記念品は、専門部会で協議の結果、色々なアイディアが出されたが、利用度が高く、もつともポピュラーなテレホンカードと記念絵ハガキの二種と決まった。

六十二年六月七日、慰靈祭当日、場所は小生の住職寺院、大阪市北区野崎町の冷雲院本堂にて、午後二時より始められた。

遺族出席三十八名、来賓四十名、理事四十八名、会員四十名計百三十六名、僧侶八名

総勢百四十名がむし暑い初夏の木造本堂で、一堂に会した。

法要は約一時間、捕われた魚類を放してやる事による仏の供養——「放生会」という昔から伝わった厳粛な法要で、先

亡各位の靈を供養した。

ご出席の遺族の方々は大変に感激され、お供えをどうし

ても断り切れなかつた為、募

金の方に入れさせて頂いた方

もあつた。又高五期の北之坊さんのご厚意により、ご供養

の折り畳み傘を原価サービスして頂き、ご遺族の方々に喜んでもらつて本当に有難かつた。しかし当日は来られなかつた三十八遺族以外の方々に

も何とかしてあげたかったと

西尾君(高四)のご厚意に答えた。

絵はがきは例によつて鈴鹿副

会長のご尽力で誠に美しい写

眞を作つて頂いた。記念品の注文をとりながら片一方でパ

ーティの参加者数を毎日学校

迄足を延しては刻々と報告し

て頂いた上野会計(高九)、更に小川さん(高四)等の

五、更に小川さん(高四)等の

ご尽力には全く頭が下る思い

だつた。

一方秋の大パーティーは、実

行委員が全力をあげて、それ

こそ全員参加の意気込みで準備を取り組んだ。大阪の玄関、梅田で最新のホテルビルトン

にて、約二百五十坪の五階の

大会場を借り切つて果して満

員となることができるのかど

うか。せめて五百人の参加が

あればなあ、宴会部長の荻野君(高六)と互に悩んだ。彼

の斡旋にて総額百五十万円の

予算にて現代日本の最高級ジ

ャズというカポビュラーチン

ガーのベギー・葉山とスイング

バンドをお膳立てしたのが果し

てシロとなるかクロとなるか、

正に当日(十一月二十一日)ま

ではヒヤヒヤ物だった。十月

中は申込者は少なく心配だつ

たが、十一月に入つてからは、

学校の現役職員約七十名の出

席が校長、教頭先生のご配慮

で可能となり、PTAも役員

全員、更に高校二桁期即ち十

一期以下の出席者がぐんぐん

と日が迫まるにつれて増え、

最終締切日には、八百名に手

が届く所まで増加した。

料理の方も不足してはいけ

ないと適当に増やし、飲物も交渉して、安い持込みを増や

して頂き、着々と準備を進め

ていった。ただ場所だけは広過ぎては困ると思つて広

だけが逆目となり、パーティー

始まってからはやや窮屈な思

いをさせた事だけは予期せざ

る事だつた。しかし嬉しい誤

算であつた。

会長、校長等の挨拶があつ

て、後ペギー葉山のショーン

入つてからは、パーティーが盛

り、来場者は充分に雰囲気

上り、来場者は充分に雰囲気

を満喫して頂けたと自負して

いる。

この紙上を借りて、最後に

なりましたが、お礼を申し上

げたい。校長先生、教頭先生

を始め諸先生、職員の方々、

又PTAの役員の方々、会長

始め全役員、更に特に働く

いて頂いた実行委員の先輩後

輩の諸兄姉及び理事の皆さん

を始め諸先生、職員の方々、

又PTAの役員の方々、会長

二  
挨拶

學校長

西岡 稔之

尚和会会員の皆様には益々

四

も、菊川暎人先生の後任として着任いたしました西岡でございます。甚だ至らないものでござりますが高誼を賜りますよう宜しくお願ひ申しつけます。

の五十年を越える歴史と伝統にたいしまして心からの敬意を表するものでござります。一口に歴史と伝統と申しますが、その間の教職員、生徒一體となつての努力はもとよりのことであります。尚和会の絶大なるご支援の事実をも知らされまして敬意と感謝を表したいと存じます。

本校へ参ります直前の玉川高校は府立第百五十二高等学校として設立されましたので、学校の緑化をはじめ環境整備も未だこれからでございまし

はじめまして

全日制教頭

前田昌則

私このたび、大阪府立桜塚高等学校の教頭としてまいりましたが、五十年の伝統をもつこの学校に勤務できますことをとてもうれしく思っています。

三月末、初めて学校へまいりましたとき、校内を案内していただきましたが、特に校門横の数本の楠と広いグラントドの向うに佇立する一本の楠

したので、本校の中庭を如くにして緑豊かな学舎のたたずまいには、驚きでありますとともに、ここまで整備された関係者のご努力に唯々頭が下がります。これも尚和会の皆様のお蔭であるとのことで、重ねて御礼を申し上げたいと存じます。

本校の教育方針は全人教育であり、その中で個性の伸張に重点を置くということです。私も従来の教育方針

一人がそれを読むと、原稿をもつて現実化したのではないかと思ひます。何かと殺伐たるものではあります。しかし、この豊かな自然が不可欠だといふことは、かくも言ひ難い。ちょうど尚和会の皆様方のご好意で、あがめられていました。ちようど尚和会の皆様方のご好意で、あがめられました。このすばらしい庭園は、美しい、緑の草木に接するとの少ない本校生徒たちに、

前田昌則

樹木を植えるスペースが確保されていない、現在の敷地から考えて、今ある草木を大切に育てていくことが必要だと思います。これからも、もとと緑の枝葉を繁らさせてくれることを望みたいと思いますし、同時に、生徒たちにも、生き残った楠のように、大樹として成長してくれることを期待してもいます。

桜塚高校と私が、誕生をにしているという偶然も何かの縁だと思いますし、皆様がお仲間に加えさせていただいた者として、どうぞよろしくお願いいたします。

小さな苗木が、暖かい陽さしをうけ、激しい風雨にうたれながら、さまざま喜怒哀楽を経てこんなにも大きく育つってきたわけですが、こうし

に強く心をひかれました。これら一本一本の樹に、長い歴史とここで学び巣立つていかれた多くの同窓生の方々のお姿を見たような思いがしたからです。

を受け継いで、本校教育の一層の発展に微力を尽くす所存でございますが、個性の伸張は言うは易いことであります。が、可塑性に富んだ高校生が自らをじっくり見詰めて、将来に向けた自らの個性をどう暖め、伸ばし、開花させるかは、本人にとってはまさしく大事業かと存じます。生徒一人一人が、いわば「個性の開拓者」であることは、必ずしも本校の教育目標であることは間違いないと思ふ。

定时制の近況

西村紀用

63年卒業生進学状況

(四月八日現在)

昭和六十二年度は男子五十  
六名、女子二十二名、計七十  
七名が四年間の学業を終えて  
卒業しました。卒業生の進路  
状況を報告しますと、新規就  
職者は男子四名、女子三名で、  
進学者は男子一名（大阪外大  
II部）、女子二名（松蔭女子短  
大、武庫川女子短大）です。  
一方、入学志願者は、一次  
二次を併せて定員（一六〇名）  
を越え、二桁の不合格者を出  
しましたが、六十三年度は、  
一次では前年より十五名減で  
定員割れとなり、本校定時制  
にも志願者数の減少傾向が表  
われ始めたようです。  
次に、六十二年度の生徒の  
活動中、特筆すべきものとし  
ては、クラブ活動での活躍を  
あげることができます。  
以下に各部の成果を列挙し  
ます。

野球部、大阪府大会優勝・  
近畿大会準優勝、バトミント  
ン部、春季大会団体戦男女と  
も準優勝・新人戦男子個人戦  
優勝・秋季大会男子団体戦優  
勝・近畿大会出場・女子個人  
戦二位・近畿大会出場、バス  
ケット部、定期大会優勝・近  
畿大会三位、空手拳法部、初  
段位獲得三名等々。  
この様な結果、第三十七回  
大阪高等学校総合体育大会、  
定期制・通信制課程の部で男  
子は第四位の成績を上げ、優  
良校として表彰されました。

御  
礼

前学校長

## 菊川暎人



尚和会の皆様には益々ご健勝のことと存じます。

昨秋の創立五十周年記念事業につきましては、本当に暖いご厚情ご協力を賜り誠に有難く厚く御礼申し上げます。

皆様が母校を思い出されるとき、必ず脳裏に浮かべられた、詩情溢れる恵風苑・恩露園を、場所と姿こそかわりましたが、再興していただき、これから本校で学ぶ生徒諸君

が、楽しい語らいの場、憩いのところとして、滝の水音とともに、潤いの多い日々送ることと思います。

この五十周年をよい機会として、尚和会の皆様方のご高配のお蔭で、本校で八年、教員生活三十六年を、思い出深いものとして、このたび退職出来ましたことは嬉しい、心から喜んでおります。本当に有難うございました。

今後は、皆様と共に尚和会の一員として、桜塚高校の益々の充実発展を祈り続けて参りたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 桜塚を去るにあたつて

定時制教諭 岩本 鎮夫

春爛漫の良き候、ますます同窓生の皆さんには御清祥のこととお慶び申し上げます。

さて私ことこのたび三月末をもって桜塚高校を定年退職いたしました。

さくらのたびにわたり大過なく勤めさせて戴きました。誠に感慨無量なるものを感じます。この間

三千数百名にのぼる同窓生諸君と出会い情熱を傾注して魂

十年という大きな節目の時に在職させていただき、皆様と共に祝い、共に喜ぶことができましたことを何より嬉しく思っています。いつ迄も桜塚を気にかけ、愛していく下さる尚和会々員の皆様方には絶大なお力添えをいただき有りました。どうございました。記念誌の編纂・発行と式典、更に祝賀の宴を、華麗に且つ厳肅に終えることができましたこと、終生の想い出として大切にしたいと存じます。

この三年間にご勇退されました菊川暎人校長先生が、その完成に精魂を込められました。四年前の丁度今の時期、桜塚に参りました頃のことが申しあれましたが、この度府立島上高校に転任致しました。四年前の丁度今の時期、桜塚も今は春酣わかつ、早やだ數目にしかならないのに、桜塚も今は春酣わかつ、早やせん。

樹々が芽立ち、花綻ぶ季節がまた巡つて参りました。まだ数目にしかならないのに、桜塚も今は春酣わかつ、早やせん。

申し遅れましたが、この度は眞似ようのない落着きとゆとり、そして暖かさと深み一風雪に耐え、年輪を重ねたものだけが持つ、いわば学校としての品格とでもいうべきものをしみじみと実感したものです。

今、過ぎた日々を顧みまして、折角お世話になりながら、桜塚のために為すところの甚だ少なかつたことをただ恥じるばかりですが、幸い創立五

段と潤いと和やかさを添えて

と魂をぶつけ合つて悔いなく教えることが出来ました。そうして教えることを通して、すばらしい尊い経験と教訓を学ばせてもらいました。ここに衷心より厚く御礼申し上げる次第でございます。

桜塚三十五年の教師生活は私の人生の歴史であると同時に私の人間形成の貴重な過程であったと言つて過言ではな

いでしょう。定時制が発足してまだ日の浅い昭和二十八年の四月私は二十五才で着任しました。劣悪な教育条件・恵れない教育環境・そうして低賃金にも屈せず「勤労と勉学」の両立をめざし青春の全情熱を捧げて必死に追求しようとすると生徒諸君のひたむきな姿に圧倒されてしまいました。

その頃あのなつかしい木造の旧校舎の玄関右横の応接室で真冬の嚴寒にストーブもなく、震えながら英語の補習をしたあの苦しい体験は今ではなつかしい想い出の一つです。

桜塚高校定時制の歴史を一瞥するとき二十年代は苦難の創生期三十年代はやっと花咲く全盛期、四十年代後半は生徒減による衰退期、五十年代は生活指導が困難な生徒の荒廢期、六十年代はようやく落着が見られる平静期と言えるのではないかと私は思います。

この三十五年の歴史の中で質

的にも量的にも生徒達は大きく変化したことは事実です。実力が低くとも生きて行こうと努力する生徒達には大きな愛情をもつて支えてやりたい気持で一杯です。今私の脳裏に苦難を共にした同僚教師の姿が浮んできます。社会科の高橋先生(関大の教授)・物理の砂川先生(阪大理学部教授)・日本史の末中先生(京大大学院教授)・英語の丸谷先生(教育大教授)・世界史の荒武先生(外大教授)・其の他多くの諸先生に教えて戴きなつかしく想い出されます。最後に茲父のようであつた白川先生(主事、国語・英語のない真面目な松本先生(生物)・人生経験豊かな井関先生(社会)・豊かな体験の学究的な坂田先生(英語)・ひたむきで情熱的な古賀先生(体育)以上五名の先生が他界されたことはまさに残念であり惜しまれなりません。ここに今は亡き五名の先生方の御冥福を心から祈り上げたいと思います。

一応三月末で現職にピリオドを打ちましたが、特別講師の辞令を四月一日押受けました。同じ桜塚で勤めるようになりました。今後ともよろしく御指導下さいますようお願い申し上げます。

桜塚高校(定時制)のままでの健全な発展と同窓生諸君の御健康と御多幸を祈念して私の御挨拶と致します。

## 桜塚を想う

全日制前教頭

## 岡田寿一

樹々が芽立ち、花綻ぶ季節がまた巡つて参りました。まだ数目にしかならないのに、桜塚も今は春酣わかつ、早やせん。

では眞似ようのない落着きとゆとり、そして暖かさと深み一風雪に耐え、年輪を重ねたものだけが持つ、いわば学校としての品格とでもいうべきものをしみじみと実感したものです。

今、過ぎた日々を顧みまして、折角お世話になりながら、桜塚のために為すところの甚だ少なかつたことをただ恥じるばかりですが、幸い創立五

桜塚を去るにあたつて

全日制教諭 町野道昌

## 全日制教諭 町野道昌

過去が懐しくなつたり、昔の話を話題にするようになる」と、年をとった証拠だと以前誰かに聴かされたことがあります。先日教室で机やロッカーカーを整理していると、六、七期生の水泳部員と一緒に写した写真やクラブのバッヂを見えつけ、懐しく昔を想い出しながら、桜塚高校と自分の三十五年間のいろいろな事柄を想い出していました。

私が初めて桜塚に赴任して来ましたのは、昭和二十七年秋も半ばを過ぎた十一月中旬でした。多くの緑に囲まれた木造校舎のたたずまい。恵風苑や恩露園。玄関から眺めた講堂等々。男子校出身の私は、大変強く印象にのこっています。又西館の家庭科特別教室や作法室も珍らしく、感心しながら納得した記憶がのこっています。体育科の教師として最も関心のある体育館やグランドも初めて見た時は、一寸狭いかなあと感じたことなど、今は懐しい思い出となりました。

しかしこれらの木造校舎も鉄筋の新校舎に生れ変わりましたが、新校舎が次々とできあがつてゆくとともに、旧校舎も次々と姿を消してゆくのを見た頃は大変寂しく感じたものでした。

去年の秋創立五十周年式典のとき、井上まさ先生が表彰され、感謝状が贈呈されるのを拝見しながら、私も桜塚に三十五年余務めさせて戴いた事の喜びと幸せをかみしめていました。他の高校の経験のない私には他校との比較はできませんでしたが、今まで聴いたり見たりしてきた限りでは、結論はいつも「桜塚はいいなあ」と思っていました。これも創立以来の伝統がつくりあげた校風と、良き生徒に巡り合えたためだと生方も含め多くの先輩の諸先生方や良き同僚に恵まれ、若い先生方に支えられてきたためだと思っています。又今は亡き先生方も含め多くの先輩の諸先生方や良き同僚に恵まれ、若い先生方に支えられてきたためだと思っています。此度大過なく定年を迎えたことを心より感謝しています。

在職中の想い出は尽きませぬ。私には掛け替えのない大切な宝物として心の中にしまづておきたいと思っています。

最後に、尚和会会員の皆様のご健康をお祈りし、今後益々のご活躍を期待しています。

めにすつかり足を痛めて、次会へと威勢よく流れてい  
知人や仲間と別れて、比較早い帰宅の途についたのだ  
た。この時、前年から一、度声掛けられ、この秋に  
つていよいよ決意を迫られ  
いた天王寺予備校（併設中  
備校）への転職を決断する  
がきたなという感情のよう  
ものがむらむらと湧いてきま  
での一年は記念誌を何が  
んでも作りおせねばなら  
いという重い気分との闘い  
つた。それが思いもよらず  
評で迎えられたため、ほつ  
した安堵感の空隙を襲つた  
情であつたのかも知れない  
さて退職するとなると多  
のかかわりのある人々に迷  
をかけないかどうか、次の  
場での不安はないかどうか  
特に今年の新三年生を送り出  
てからにすべきかどうか、  
に朝の目覚めがいつになく  
苦しくなってきたのであつた  
桜塚高校は母校である。  
春の一時期をはぐくみ育て  
くれた思い出は数限りなく  
そして遠のくほど美しく懐  
いものになつていく。その  
いを込めて記念誌「五十年  
あゆみ」に再現したつもり  
ある。

振り返つてみますと早い  
ので桜塚に新卒でお世話に  
りましてから十五年たちま  
た。右も左もわからなかつ  
新米を暖かく御指導下さつ  
先輩の先生方、どうも長い  
本当に有難うございました  
当初は色々な面で頼りない  
りでしたが、おかげ様で近  
は少しは自信を持てるよう  
なりました。少しも恩返し  
出来ぬまま今回何の縁か箕  
高校にお世話になるように  
ととしては良いのですが四十  
期生のことが心残りです。  
の学年は2年生まで持ちあ  
り、花を咲かせる大事な時  
に少しもお手伝い出来ない  
は誠に残念に思います。し  
し桜塚の生徒諸君は様々な  
野において潜在的な力は非  
にあると思います。生徒諸  
はどうか簡単にあきらめな  
で自分の力を信じて努力を  
けて下さい。

いにも母校の教師となり、母校の名を高からしめるよう頑張ってきたつもりである。

その桜や梅や備品が校舎とつくりとなじみ、大地にしつかりと根付いた時、本校の歴

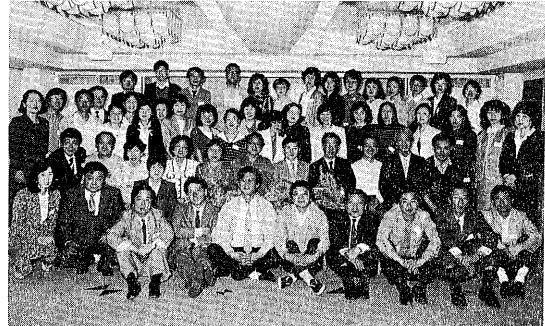
全日本柔道連盟  
名木山

## 鐘のひびき

三十周年同期会

高九期 増田優子

昨年五月十日、清新しいビルトンホテルに於いて、九期三十周年記念同窓会を開きました。



恩師の、井上三郎、倉田、飯尾、越水、野曾原、近藤、国本、高橋桂四郎、各先生方、百名以上の同期生が集まり、楽しい会になりました。開会前からロビーのあちこちで輪ができていきました。菊川校長先生はじめ同窓会会長高津弘氏もお祝にかけつけて下さいました。

はじめは遠慮がちだった会場もすぐに十八才の気分にも

なり三十年間の歳月をうずめ、

井上まさ先生、内田彰先生、牧末男先生、辻内興彦先生を

お招きし、男性二十二名、女性三十二名の計五十三名

が集まり、とても楽しい

ひとときを過しました。

先生方も二十年前とは、全然お変わりなく、いつ

までもお若くて、お話し

ぶりも、昔とちつとも変わ

わられなくて、本当に懐

しく思いました。

驚いたことには、私達

の高校時代のエピソード

などを色々と、よく覚え

ていて下さって、その当

時を思い出し、皆で、大爆笑しました。

私達生徒の方が、すい

ぶんと皆変貌してしま

い、男性の中には、頭が

白くなったり、少し淋しくな

つたり、太った人、やせた人と、

二十年という年月の長さを、

つくづくと感じました。でも

自分の間、じっと顔を見て、お

かれる思いで別れを惜しみつ

つ次回も又、元氣で会えるこ

とを誓い散会しました。

柳井真知子

高校二十期同窓会

私達二十期生は、昨年の、豊中のアイ

ボリーホテルで、第二回目の、同窓会を開催致しました。

第一回目は、六年前の五十

七年に、卒業以来なんと十四

年ぶりに、初めて同窓会を開

き感動の一日でした。

今は懐しい諸先生方、

井上まさ先生、内田彰先生、

牧末男先生、辻内興彦先生を

お招きし、男性二十二名、女

性三十二名の計五十三名

が集まり、とても楽しい

ひとときを過しました。

先生方も二十年前とは、全然お変わりなく、いつ

までもお若くて、お話し

ぶりも、昔とちつとも変わ

わられなくて、本当に懐

しく思いました。

驚いたことには、私達

の高校時代のエピソード

などを色々と、よく覚え

ていて下さって、その当

時を思い出し、皆で、大爆笑しました。

私達生徒の方が、すい

ぶんと皆変貌してしま

い、男性の中には、頭が

白くなったり、少し淋しくな

つたり、太った人、やせた人と、

二十年という年月の長さを、

つくづくと感じました。でも

自分の間、じっと顔を見て、お

かれる思いで別れを惜しみつ

つ次回も又、元氣で会えるこ

とを誓い散会しました。

柳井真知子

高校二十期同窓会

私達二十期生は、昨年の、豊中のアイ

ボリーホテルで、第二回目の、同窓会を開

き感動の一日でした。

今は懐しい諸先生方、

井上まさ先生、内田彰先生、

牧末男先生、辻内興彦先生を

お招きし、男性二十二名、女

性三十二名の計五十三名

が集まり、とても楽しい

ひとときを過しました。

先生方も二十年前とは、全然お変わりなく、いつ

までもお若くて、お話し

ぶりも、昔とちつとも変わ

わられなくて、本当に懐

しく思いました。

驚いたことには、私達

の高校時代のエピソード

などを色々と、よく覚え

ていて下さって、その当

時を思い出し、皆で、大爆笑しました。

私達生徒の方が、すい

ぶんと皆変貌してしま

い、男性の中には、頭が

白くなったり、少し淋しくな

つたり、太った人、やせた人と、

二十年という年月の長さを、

つくづくと感じました。でも

自分の間、じっと顔を見て、お

かれる思いで別れを惜しみつ

つ次回も又、元氣で会えるこ

とを誓い散会しました。

柳井真知子

高校二十期同窓会

私達二十期生は、昨年の、豊中のアイ

ボリーホテルで、第二回目の、同窓会を開

き感動の一日でした。

今は懐しい諸先生方、

井上まさ先生、内田彰先生、

牧末男先生、辻内興彦先生を

お招きし、男性二十二名、女

性三十二名の計五十三名

が集まり、とても楽しい

ひとときを過しました。

先生方も二十年前とは、全然お変わりなく、いつ

までもお若くて、お話し

ぶりも、昔とちつとも変わ

わられなくて、本当に懐

しく思いました。

驚いたことには、私達

の高校時代のエピソード

などを色々と、よく覚え

ていて下さって、その当

時を思い出し、皆で、大爆笑しました。

私達生徒の方が、すい

ぶんと皆変貌してしま

い、男性の中には、頭が

白くなったり、少し淋しくな

つたり、太った人、やせた人と、

二十年という年月の長さを、

つくづくと感じました。でも

自分の間、じっと顔を見て、お

かれる思いで別れを惜しみつ

つ次回も又、元氣で会えるこ

とを誓い散会しました。

柳井真知子

高校二十期同窓会

私達二十期生は、昨年の、豊中のアイ

ボリーホテルで、第二回目の、同窓会を開

き感動の一日でした。

今は懐しい諸先生方、

井上まさ先生、内田彰先生、

牧末男先生、辻内興彦先生を

お招きし、男性二十二名、女

性三十二名の計五十三名

が集まり、とても楽しい

ひとときを過しました。

先生方も二十年前とは、全然お変わりなく、いつ

までもお若くて、お話し

ぶりも、昔とちつとも変わ

わられなくて、本当に懐

しく思いました。

驚いたことには、私達

の高校時代のエピソード

などを色々と、よく覚え

ていて下さって、その当

時を思い出し、皆で、大爆笑しました。

私達生徒の方が、すい

ぶんと皆変貌してしま

い、男性の中には、頭が

白くなったり、少し淋しくな

つたり、太った人、やせた人と、

二十年という年月の長さを、

つくづくと感じました。でも

自分の間、じっと顔を見て、お

かれる思いで別れを惜しみつ

つ次回も又、元氣で会えるこ

とを誓い散会しました。

柳井真知子

高校二十期同窓会

私達二十期生は、昨年の、豊中のアイ

ボリーホテルで、第二回目の、同窓会を開

き感動の一日でした。

今は懐しい諸先生方、

井上まさ先生、内田彰先生、

牧末男先生、辻内興彦先生を

お招きし、男性二十二名、女

性三十二名の計五十三名

が集まり、とても楽しい

ひとときを過しました。

先生方も二十年前とは、全然お変わりなく、いつ

までもお若くて、お話し

ぶりも、昔とちつとも変わ

わられなくて、本当に懐

しく思いました。

驚いたことには、私達

の高校時代のエピソード

などを色々と、よく覚え

ていて下さって、その当

時を思い出し、皆で、大爆笑しました。

私達生徒の方が、すい

ぶんと皆変貌してしま

い、男性の中には、頭が

白くなったり、少し淋しくな

つたり、太った人、やせた人と、

二十年という年月の長さを、

つくづくと感じました。でも

自分の間、じっと顔を見て、お

かれる思いで別れを惜しみつ

つ次回も又、元氣で会えるこ

とを誓い散会しました。

柳井真知子

高校二十期同窓会

私達二十期生は、昨年の、豊中のアイ

ボリーホテルで、第二回目の、同窓会を開

き感動の一日でした。

今は懐しい諸先生方、

井上まさ先生、内田彰先生、

牧末男先生、辻内興彦先生を

お招きし、男性二十二名、女

性三十二名の計五十三名

が集まり、とても楽しい

ひとときを過しました。

先生方も二十年前とは、全然お変わりなく、いつ

までもお若くて、お話し

ぶりも、昔とちつとも変わ

わられなくて、本当に懐

しく思いました。

驚いたことには、私達

の高校時代のエピソード

などを色々と、よく覚え

ていて下さって、その当

時を思い出し、皆で、大爆笑しました。

私達生徒の方が、すい

ぶんと皆変貌してしま

い、男性の中には、頭が

白くなったり、少し淋しくな

つたり、太った人、やせた人と、

二十年という年月の長さを、

つくづくと感じました。でも

自分の間、じっと顔を見て、お

かれる思いで別れを惜しみつ

つ次回も又、元氣で会えるこ

とを誓い散会しました。

柳井真知子

高校二十期同窓会

私達二十期生は、昨年の、豊中のアイ

ボリーホテルで、第二回目の、同窓会を開

き感動の一日でした。

今は懐しい諸先生方、

井上まさ先生、内田彰先生、

牧末男先生、辻内興彦先生を

お招きし、男性二十二名、女

性三十二名の計五十三名

が集まり、とても楽しい

ひとときを過しました。

先生方も二十年前とは、全然お変わりなく、いつ

までもお若くて、お話し

ぶりも、昔とちつとも変わ

わられなくて、本当に懐

しく思いました。

驚いたことには、私達

の高校時代のエピソード

などを色々と、よく覚え

ていて下さって、その当

時を思い出し、皆で、大爆笑しました。

私達生徒の方が、すい

ぶんと皆変貌してしま

い、男性の中には、頭が

白くなったり、少し淋しくな

つたり、太った人、やせた人と、

二十年という年月の長さを、

つくづくと感じました。でも

自分の間、じっと顔を見て、お

かれる思いで別れを惜しみつ

つ次回も又、元氣で会えるこ

とを誓い散会しました。

柳井真知子

高校二十期同窓会

私達二十期生は、昨年の、豊中のアイ

ボリーホテルで、第二回目の、同窓会を開

き感動の一日でした。

今は懐しい諸先生方、

井上まさ先生、内田彰先生、

牧末男先生、辻内興彦先生を

お招きし、男性二十二名、女

性三十二名の計五十三名

が集まり、とても楽しい



# 創立50周年記念

の人で大袈裟に言えば人をかきわけ搔き分け進まなければならぬ程であった。  
実は案内状を頂いた時下さい分迷った。何しろ松葉杖が必要な為今まで二十数年は同窓会にも同期会にも出席していない。でも一期生で六十三才と言つ年令とお目出度い五十五周年記念パーティーであると言う事を考え併せると二度とこんなチャンスに恵まれることはないし、幸い「同伴も可」とあつたので主人について来てもらつて出席する事にした。  
一期生の集つている所へ案内

になり男女共学になつたと頭集までいらっしゃる五十代、四十代、もつと若い人も含めて社会の中堅どころや重要なストにある人々が皆桜塚の卒業生だと思うと頼もしい限りであった。

御馳走を運んでいただきベギー葉山ショリー、福引きと樂しく過ごし名残り惜しく会場を後にした。

先生方にも御挨拶する勇気がなく帰つて来たことを大変申訳なく思つてゐる。

昨年十一月二十一日、午前中、豊中市立市民会館で行われた母校主催の創立五十周年記念式典の余韻が冷めやらぬままに、午後からは尚和会主催による記念大パーティーが大阪北区のヒルトンホテル（桜の間）で開催された。

開会一時間前の三時より受付を開始したが、予約した会員や、当日参加の会員が続々と詰めかけ、開会直前には先生方やP.T.A.、来賓の招待者を含め八百名近くが一堂に会し、さしもの会場も狭く感じ

募金及びパーティ参加期別集計表 63.

期	募 金		期	募 金		が特設の舞台に登場する、華やかな衣裳のペギー葉山	
	人數	金額(円)		人數	金額(円)		
高女 1期	162人	1,594,000	25人	高校 28期	17人	117,000	1人
2 期	82	756,000	29	29	10	85,500	2
3 期	94	627,000	5	30	6	48,000	5
4 期	90	2,034,000	14	31	7	48,000	3
5 期	92	839,000	13	32	8	40,000	0
6 期	65	645,000	12	33	14	109,000	3
7 期	42	556,000	7	34	14	66,000	5
8 期	44	352,000	15	35	11	88,000	4
小 計	671人	7,403,000	120人	36	5	50,000	1
既進学 1期	2	13,000	1	37	5	16,000	0

高価車 1期	26	234,000	4	38	3	90,000	1
2	41	784,330	11	39	6	30,000	0
3	151	2,153,000	47	小計	1,228人	12,157,710	534人
4	146	1,617,330	57	定期制 4期	3	40,000	1
5	71	733,000	38		5	30,000	1
6	57	637,000	44		6	30,000	1
7	59	539,000	42		7	66,000	3
8	58	641,000	26		8	60,000	2
9	87	802,000	19		9	30,000	1
10	35	250,000	23		10	0	0
11	24	210,000	13		11	30,000	0
12	86	526,000	33		12	10,000	0
13	39	331,000	19		13	22,000	0
14	33	250,000	12		14	10,000	1

15	17	146,000	14	16	2,	26,000	0
16	27	197,000	12	18	1	10,000	0
17	26	310,000	21	19	1	3,000	0
18	19	154,000	9	21	1	2,000	0
19	31	237,000	18	25	1	10,000	2
20	16	150,000	5	27	3	10,000	0
21	10	88,000	9	28	1	10,000	0
22	10	54,000	5	34	0	0	1
23	9	58,550	14	小計		37人	399,000
24	9	84,000	7	職員	103	2,269,000	96
25	6	33,000	1	P T A	—	—	12
26	7	68,000	2	慰靈祭お供		80,000	—
27	10	71,000	3	本部道B会		20,000	—
募金合計		2,039人	22,328,710円		776人		



長より校長へ  
寄附目録を渡す

る程となりました。

定刻の四時、高木清伸副会長の開会の辞により式典の幕は切って落とされた。

ありがとう元会長さん  
(右より初代矢野鈴子、三代塚田京子、  
六代越水ユリの各氏)

会場のあちこちから、ドット  
歓声が湧いて、パーティーは更  
に熱気に包まれていった。  
こうして楽しむこと約三時  
間、到頭終宴の時間になり、  
鈴鹿副会長の閉会の辞を以つ  
てパーティーの幕は閉じられた。  
私の拙い司会は別として  
パーティーは五十周年にふさわ  
しい申し分のないものであつた。  
冒頭に述べたように、我々  
の予想をはるかに上廻る八百  
名近い方々に、ご参加を頂き  
大盛会裡に終えることができ  
たのも、会員各位の暖いご  
援のおかげと、実行委員会、  
関係者一同深く感謝しております。  
この場を借りて厚く  
お礼を申し上げます。  
これからも尚和会の発展の  
ため又母校が六十周年、いや  
百周年に向けて更に発展しま  
すよう、ご支援の程よろし  
くお願ひ申し上げます。

# 「五十周年のあゆみ」苦心談

前教諭(高三期) 山本 孟

本校の記念誌は今までに「三十周年のあゆみ」と「四十周年のあゆみ」が残されている。そしてありがたいことにその時に使われた貴重な資料がそのまま残されていることを知つて、編集の諸先生方のご配慮に感謝した次第である。

さて「五十周年のあゆみ」はこれらの記念誌を参考にしながら、五十年という大きな区切りでもあり、今までの集大成にしようと意気込んだ。

まず旧制女学校時代から本校一筋の井上まさ先生に最も重要な編集委員となっていた

まま残されていることを知つて、編集の諸先生方のご配慮に感謝した次第である。

さて「五十周年のあゆみ」

はこれららの記念誌を参考にし

ながら、五十年という大きな

区切りでもあり、今までの集

大成にしようと意気込んだ。

それに全体の構想を練り上げた。

その柱となるものは座談会形式で学校生活を語っていた

だけ、他の編集委員の方々と

共に全体の構想を練り上げた。

その柱となるものは座談会

形式で学校生活を語っていた

だけ、他の編集委員の方々と

共に全体の構想を練り上げた。

その柱となるものは座談会

形式で学校生活を語っていた

お願いした。

一方、旧教職員の方々、各

期の方々に原稿を依頼し、当

時の取つて置きの話をお願

した。だれにお願いするかは

ずいぶん悩んだものである。

ご無礼した方々も大層大勢い

らつしやるので、ここで改め

てお詫び申し上げる。またク

ラブ活動の記録も一つ残らず

網羅することは不可能に近い。

クラブの改歴が意外に多く、

名前だけは一つ洩らさずに書

き出すことで精一杯であった。

しかしありがたいことに、

資料の提供や原稿など非常に

協力的でどれもこれも載せた

ところに駆られたが、二百頁

という限度があるためにその

取捨選択に苦労した。

こんなやわいにして、読ん

で面白く、見て楽しい記念誌

にするために、重要なけ

れども無味乾燥な部分は殆ん

ど削ぎ落として必要最少限度のものにとどめた。たとえば年表や教職員一覧表などである。これも記録が不十分で、多くはアルバムさえ全部揃つていなかつた状態であつただけになお更惜しまれてならない。

六十二年の夏休みは殊のほか暑かつた。編集委員は追いつめられていた。挿絵代わりになる写真がまだ決まっていなかった。野曾原先生の残された多くの写真はもう二度と再現できない旧校舎がみごとに記録されていた。この中から選ぶのは至難のわざだった。

アルバムからも数多く複写した。この真夏の連日、写真の編集作業は最も苦しい時期であつた。

この時、写真屋の関野さん、佐々木さん、凸版印刷の長橋さん、山下さん、坂田さんの援助がなかったならば、到底今日のような本になつていなかつたであろう。幸いにも山下さんは高校七期生だつたし、

こうして昭和六十年十月、高女一期生の集まりを第一回の座談会として原稿集め、資料集めが開始された。六十一

年春休みから一学期にかけ都合五回の座談会を生徒のいない日曜日に録音を取つた。

編集委員の苦労は大変なものだった。定期制は馬場先生に

そのテーブルから文章にする各

方があつたが、そのうちは

うつべきでなかつたかと

いうことだった。最初のうち

訂正とお詫び

先に発行いたしました五

十周年記念誌「五十年のあゆみ」のうち、今までにわ

かりました誤りをここに譲

しんで訂正し、関係の方々

にお詫び申しあげます。

P 178	「巨大迷路」の写真説明(高36期)→(高39期)
P 187 上段	社会・本田総平→本田総三
P 192 中段	理科・肥塚敏彰・府数委→府教委
P 195 中段	昭和57→59年→昭和57→58年
P 195 下段	昭和60→61年→昭和59→60年
(追加)	昭和62年→昭和61年
P 204	昭和50年4月9日
P 202	(橋爪四郎選手来校・昭和二十九年)
年表 P 204	旧校舎から新校舎に移転。
年表 P 202	昭和28年プール開き挙行。

予想ができなかつた完成図が、みごとな変貌を遂げたので

年表 P 204 昭和50年11月29日 旧校舎南館解体撤去。

## 桜花会の皆様へ

お変りなくお過しでいらっしゃいますか。

一年一度の同期会、昨年は

母校の五十周年に便乗させて

頂き、盛大なパーティでお逢

いできました。今年も秋には

お世話役から連絡があると思

いますので、お一人でも多く

の方のご出席をお待ちしてい

ます。

悲しいお知らせですが、六

十二年十月、上田裕子さん、

六十二年二月、竹島清美さん

がお亡くなりになりました。

三年に千円の割でお願いし

ております通信費、ご出席の

尚和会の理事会は年六回、母校の尚和会議室で開催されますが、そのうち一月に行われる理事会は、議事終了後、理事の皆様の親睦をはかる新年宴会となります。

昨年は、五十周年事業に明け暮れた一年であり、その慰労を兼ねて(勿論会費制)、今年は、一月十七日(日)、日本最古の温泉地、有馬で開催致しました。

遠方でもあり心配を致しましたが、バスをチャーターし

たのが良かつたのか、来賓の先生方を含め六十名の参加を得て、盛大に行うことができました。

五十周年事業報告、推薦委員の選出等の議事終了後、宴會までの時間を利用して、温泉(入浴)を楽しむ人もあり、

終始リラックスムードの中、来賓の先生方を迎えて、なご

やかな宴会が始まりました。

ホテル自慢の会席料理を賞味し、福引や再度入浴を楽しんで新春の一日を過ごしました。

なお多くの資料も残つてゐるようですが、欠席の方もよろしくご協力の程、お

福をお祈り致します。

三年に千円の割でお願いし

ております通信費、ご出席の

方は毎度ご負担をおかけし

ております通信費、ご出席の

方は毎度ご負担をおかけし

ております通信費、ご出席の

方は毎度ご負担をおかけし

ております通信費、ご出席の

方は毎度ご負担をおかけし

ております通信費、ご出席の

方は毎度ご負担をおかけし

ます。

豊中信用金庫 本店

口座番号 三九二九一〇

桜花会 中村陽子様

## 新年理事会の報告

行事担当副会長

荻野哲男

## 「五十年のあゆみ」訂正

「五十年のあゆみ」訂正

高36期)→(高39期)

年表

</div



大都城和子	河辺富士子	蔽中良子	川野悦子
井上範子	井上倭文子	長岡郁江	小池房代
和氣恭子	山岡喜代子	馬渕千代	庄司安月子
黒田美智子	堀井千代子	竹内宣子	
谷口敏子	北村嘉子		
太原英子	二宮昌子	駒井滋子	
栗田美智子	栗田愛子	広谷信枝	
高野和子	高野和子	和田美智子	
行岡伸子	宮本美喜子	檜原ひろ子	
田中雅子	田中雅子	徳田八重子	
久保朱美子	尾方礼子	播磨玲子	
武田祥代	坂本和子	永沢登喜子	
(高女六期)	近藤ひさ江	鳩谷弘子	
	島田陽子	杉山節子	
	岩谷冴子	谷千枝子	
	手塚由起子	植下佐千子	
	田尻朝子	西川良子	
	高見和子	赤沢満子	
	小尾喜代子	小幡尚子	
	長山千加代	藤井紀子	
	斎藤滋子	池内京子	
	桐山澄子	和泉千恵	
	三好満智子	東峯孝子	
	藤木典子	大森英子	
	須藤和子	塚本美喜子	
	佐渡謙子	喜多靖子	
	矢野紀美	伊藤啓子	
	前沢智惠子	河井敦子	
	小田郁子	ア波田絹子	
	次田小珠恵	住山弘子	
和田英子	山本淑	秦順子	
(高女七期)	白井艶子	伊藤敦子	
	石田マリ子	湯浅敦子	
	間嶋紀子	神島あや	
	中川幸子	吉田紀美子	
	渡辺良子	古沢純子	
	阪井敏子	古川一枝	
	河内洋子		

(高女八期)	渋谷佐和代	漆崎美津江
若林直子	森野淨子	有馬靖子
高橋薫子	矢萩睦子	楠本早英子
山本惇子	賀須井華子	勝本昭子
三好美代子	中務重子	波多野良子
田村静江	矢口里子	長田昭子
生駒昌子	沢田貞子	長沢順子
國方寿美子	鶴飼律子	杉本敏子
廣瀬尚子	平野アヤ子	藤井妙子
木下千代子	大野富士子	沖中房子
風早裕代	柳生美津子	紫合ツネ子
岸本賀久子	小川道子	
阿部久子	西川淳子	
田内常子		
(併中一期)		
木村 敬	塩野淑子	
(高校一期)		
深田昭子	宮本美智子	
永 妙子	喜井智恵子	
黒河内順子	近藤博子	
山口菜子	池永敏江	
五歩一禮子		
(高校二期)		
田中由子	井上明子	
橋本伶子	宮崎幸子	
西村惇子	上田和子	
坂本邦子	石毛納子	
上田智枝	石原綾子	
橋本育代	廣田智恵子	
阿萬紀美子	粉川洋子	
横尾光子	菊池美美	
目次正子	窪田治子	
太田靖子	花井登志子	
古武恒子	北野敦子	
吉井町子	竹内督子	
村中欣子	吉本登久子	
獅山英子	四ノ宮萬壽代	
谷康康子		

高桥四郎	清水美範	�冈村幸子
福田節子	佛原寧子	片山彰
枝松美重子	田井晉子	元根君代
奥村嘉寿子	三浦日出男	篠原滋明
岸田玲子	松村駿一郎	吉田順子
宮永加陽子	兵頭恵美子	永谷二郎
川上繕子	生島英子	永谷靖夫
岸上治子	平野雅子	安田正江
清水裕紀子	中野芳則	木藤千栄子
吉田順子	福本尚子	田阪安子
永谷二郎	藤井敏	宮崎義夫
永谷靖夫	西村澄子	吉森みの
安田正江	小口百子	山東速夫
木藤千栄子	樋口愛子	柳部洋和
永谷二郎	浜中雅子	行俊康子
永谷靖夫	成松幸俊	大岩光江
安田正江	東島公江	阪上祐二郎
木藤千栄子	中村利治	岡本牧子
永谷二郎	木下成子	木村泰子
永谷靖夫	野口妙子	岸本輝子
安田正江	木村	前原崇子
木藤千栄子	林一雄	中川泰子
永谷二郎	塙野美知子	伊藤慶子
永谷靖夫	山田紀子	伊藤慶子
安田正江	吉野智恵子	土屋仁
木藤千栄子	井上博輔	伊藤初子
永谷二郎	植田泰子	服部育子
永谷靖夫	岩崎文彦	大田昌子
安田正江	吉田浩	大野美美子
木藤千栄子	横道満子	河本絢子
永谷二郎	中田美佐子	上島圭子
木藤千栄子	萩原和子	瀬田須美子
永谷二郎	木村恵一	小坪恒子
永谷二郎	惣田哲夫	石井千賀
永谷二郎	千原一元	三田和弘
永谷二郎	吉田浩	大野美美子
永谷二郎	横道満子	内尾恵子
永谷二郎	中田美佐子	田中専一

(高校五年期)	板谷靖子	平井
田中義輝	西川良子	西尾
安田宏子	辻 靖子	大
梅田幸雄君を偲ぶ会	奴 公夫	尾
山本敏夫	山本敏夫	上田政
植田安寛	清水千鶴子	豊田千代
内山政子	中川克	梁木圭子
山口萌三	貞光啓	西川良子
由良昌子	三浦理	辻 靖子
松尾ミツミ	瀬尻修一	大
涌山俊計	小林隆二	尾
串田明典	田中義智	上田政
上田みさ	鶴谷紀祐	豊田千代
丸 瞳子	泉 球妙	西川良子
浜 中正子	高岡康子	辻 靖子
香野淳子	伊東弘志	大
島中康伸	浜 直彦	尾
(高校六年期)	並河智恵子	浜 口美智子
青木房子	寺辻つゆ子	西川良子
吉本孝義	十倉寛治	大
岩崎圭子	藻井泰輔	尾
北 まち子	於勢幸子	上田政
児玉保子	豊岡陽	豊田千代
佐伯 博	林 迪也	西川良子
比屋根 治	上善和子	辻 靖子
下郷佐智子	片瀬公生	大
鎌田八十美	松岡公生	尾
広瀬みき子	大塚禮子	上田政
荻野扶美子	本阪英子	西川良子
杉木悟	堀見光一	大
菊川美美子	神戸敬之	尾
久畠光子	平田惠美	上田政
高川順吉	金原正臣	西川良子
邦武礼子	石井礼	大
(高校七年期)	森谷佳子	岡本信也
富田あや子	源 本子	武田光巳
福崎 隆	福田登美子	荻野哲郎
大西千枝子	一色真輝	矢島輝子

北川弘子	貴田偉津子	辻野玲子	越田美智子	坂本弘子
小谷寿子	廣本敦子	堺端靜子	古川節子	小林昭
小林昭	松浦峻	樋口達子	篠部喜美子	磯京子
磯京子	掛川ミスミ	市川道子	小池エイ子	後藤隆一
後藤隆一	関高明	桜井進栄	佐藤二郎	迫田雅子
迫田雅子	山下真一	岩瀬光子	堀江哲郎	安田明子
山下真一	渡部博子	津田暁子	堀木久美子	小松弘
渡部博子	谷川恭子	加藤恵美子	天ヶ瀬正裕	角高安宏
谷川恭子	安田明子	堀木久美子	寺門安子	浅田美代子
安田明子	大岩昌子	河野佐智子	池田征子	青柳敬子
大岩昌子	若木美知子	吉田幸恵	谷茂男	梶浦令子
若木美知子	松本悦代	大内雍子	北野伸美	岩本鉄
松本悦代	堀田雅子	上間健二	天ヶ瀬正裕	鈴木登喜子
堀田雅子	神田一三	小島光子	寺門安子	上田壯行
神田一三	水野散子	福島国江	池田征子	小北恭子
水野散子	辻久美子	森田一栄	河野佐智子	辻久美子
辻久美子	辻本悦子	春名暢子	吉田幸恵	藤本芳子
辻本悦子	渡部武	福田宏美	大内雍子	杉川トミ子
渡部武	新内明子	倉田素子	上間健二	津霸実
新内明子	前田佐吉子	森川町子	小島光子	井谷八重子
前田佐吉子	(高校九期)	今仲征子	福島国江	北川美代子
(高校九期)	河崎守男	舛谷誠一	森田一栄	河原征子
河崎守男	野々宮守孝	春名暢子	春名暢子	井原晴代
野々宮守孝	桜井慧子	福田宏美	大内雍子	井原晴代
桜井慧子	杉山愛子	倉田素子	上間健二	井原晴代
杉山愛子	安邦陽太郎	森川町子	小島光子	井原晴代
安邦陽太郎	河原征子	今元厚彦	北川美代子	河原征子

西岡猛	藤田紀雄
吉田武子	平井陸里
寺村元宏	藤岡正中
九期生一同	柴野美道
井の口常子	藤上喜久
藤田好茂	田中勇之
辛山基好	多田満智
中原悠子	須藤登志
鈴木いと子	久保治田
小原瑛子	石川浩子
門河浩子	仁科照子
能治佳津子	塚崎玲子
大川和子	松島修
竹居恵子	隅田順子
中野晴美	金山和子
上田嘉子	熊沢桂子
高瀬嘉代	伊藤淳子
森 啓祐	良子敬子
美作純古	藤田裕代
沢田幹子	乾 嘉子
清位洲夫	渡辺歌子
粉川房子	中山捷男
玉置淑子	平松章代
市村昌子	恩地朋子
乙政久子	川西昭子
関谷英枝	長谷川全
大西津也子	木下 章
橋本守正	植田京子
高橋雅子	上霜明子
山田智和子	田沼一
(高校十期)	西川千鶴
水迫千鶴子	伊藤千晶
村上順子	平田亘弘
高橋昭男	溝口勝弘
吉津昭男	檜崎紀子
愛葉和寿	山口寿三
古川紀美子	安藤雅惠
神山貞子	東田和弘
近藤玲子	平林世紀
熊田文子	端田正子
谷 辰子	坂上豊子
川井弘美	三上昌昭
上野さき子	内山興典
高校十一期)	村井保夫
笛部敬一	烟 誠子
内村健一郎	内山興典

(高校十二期)	斎藤良和 森幸子 木下紀子	白井豊 大西明代 波多野康子	吉本清志 井内典子 波部倫子	西川昌平 島田喜代子 太田妙子
三河勝彦 阿部佳紀	菅野千代子 森田昌子 木田きぬ子	谷木光一 坂上徹 宮本八重子	岡崎万里子 北奥博子 大石佳世子	
	木崎純子 尾谷佳子 橋本典子	木崎一 森 晴子 浦野昭子	野田正美 小林公子 望月光子	
	山田 元 山本正一 柴田峰子	坂上徹 山本正一 岩部和子	川崎卓二 塙見公子 吉津郁子	
	赤木征子 浅井登代子 久瀬恭子	西川承子 江口愛子 市川街枝子	網野嘉美子 中山美奈子 水川知子	
	関 豊和 原 憲子 勝丸洋子	大西恵子 柏原和子 小野宜治	柏原明子 宮田陽子 佐藤扶美子	
	磯辺貴代子 久保恵子 井崎美奈子	大西千恵子 山本恵美子 山本恵美子	鳥牧 潔 牧 爰子 原登照子	
	遠藤基子 橋高重久 大辻淑子	久我裕子 清位史子 久我裕子	飯田嘉壽子 大橋邦子 増田伸子	
鹿島紀子 二村尚子 松浦祐三 皆川美津子	大西善子 山口邦子 藤田由子	大西善子 山口邦子 藤田由子		
(高校十二期)				

毛阪順子	木村紀子	伊奈啓	日比野
長尾雅子	鈴木雅子	平石美	広瀬淳
山岡直夫	相川絢子	畑 稔	高田信
菊池信行	廣兼貴美子	細川和	浅井照
荒木由美子	三毛陸子	菅原洋	
(高校十四期)	首藤雄二郎	丹生隆	
関口かほる	喜沢治子	星野祐	
小林靖子	中務 恒	那須	
中橋順子	柴田孝昭	石井高	
中野悦子	下村嘉代子	上田晶	
三木晴夫	則枝清子	入江良	
大畠光昭	辻 真彦	中村至	
秋山詔宏	建部順子	清水康	
村木真樹恵	林 紀子	松野貞	
(高校十五期)	山崎千鶴子	木野邑	
小阪悦子	三沢 一	西野由	
中務公子	岩田悦	有賀祥	
新井哲夫	岩田千	谷 元	
前田千穂子	倉賀野	瀬見和	
林 紀子	不可三	小池忠	
(高校十六期)	秋山日		
上辻雅男	秋山日		
(高校十七期)	佐藤節		
菅 真治	平井ヒ		
疋田好彦	岩崎		
長井誠治	小山昌		
福本育馬	森田桂		
神戸繁治	上村		
守屋誠太郎	西口清		
畠川利之			
大城裕二			
田波誠一			
長谷川			
長島順			

(高校二十九期)	井上由美子	古谷いつ子	栗田成子
岡島和夫	西郷ゆり子	原 恵子	市野代美子
川辺節子	西郷喜子	砂山きよ子	宮本扶美子
藤井寿子	遊上 実	今西正直	橋本静子
松島映子	大西敏晴	柳井真知子	塚越万佐子
(高校二十期)	井上由美子	正木義夫	
糸山和則	柴山武雄	山本登志惠	
岡島和夫	川口洋子	早馬和代	
川辺節子	久島祝子	柳楽恵子	
藤井寿子	草野善一	弓削和子	
(高校二十一期)	秋田裕子		
(高校二十二期)	藤井照子		
(高校二十四期)	柴山武雄		
(高校二十五期)	川口洋子		
(高校二十六期)	久島祝子		
(高校二十七期)	草野善一		
(高校二十八期)	秋田裕子		
(高校二十九期)	藤井照子		
田中靖子	早島悦子	田中るり子	
藤田千鶴子	金井弥生	中田正隆	
高橋尚美	辻 雅子	中路法子	
坂本静世	水川千鶴子	氏家敏子	
西本麻子	平井敬子	余語明人	
(高校二十八期)	林 佳子		
田中伸子	Sachiko Brooker		
(高校二十七期)	杉村 一利		
(高校二十八期)	井関順子	森岡せつ	
服部登史子	林 佳子	森井八尋	
坂本静世	杉村 一利	太田泰子	
西本麻子	高橋尚美	谷沢朋子	
(高校二十九期)	田中靖子	大江さやか	

(高校三十期)	豊田裕幸	竹内和彌	橋本彰子	竹内和彌	柳生優子
(高校三十一期)	高田良一	森 昭弘	佐久間伸夫	岸本幸彦	井上雅代
(高校三十二期)	佐久間伸夫	谷口友香	佐久間伸夫	松元雅子	谷口和之
(高校三十三期)	松本利樹	谷口友香	松本利樹	佐久間伸夫	中井敦子
(高校三十四期)	斎藤知津	森田朋嗣	桐沢裕徳	北村輝代	沢 信雄
(高校三十五期)	有田桂一	中井敦子	松本幸彦	岸本幸彦	谷口和之
(高校三十六期)	夏井多佳子	浜口いつ子	田中洋子	高田良一	豊田裕幸
(高校三十七期)	七里敏子	川辺智子	平田信行	佐久間伸夫	佐久間伸夫
(高校三十八期)	吉岡弘和	吉岡弘和	奥 康充	斎藤知津	斎藤知津
(高校三十九期)	石川真理	石川真理	益本庸子	岡本明子	今井由紀子
(高校四十期)	弥重朝香	彈 貴司	本城靖悟	木村豪司	木村豪司
(高校四十一期)	中津佳英子	鹿島 隆	辻川隆弘	山本真基子	山本真基子
(高校四十二期)	橋爪宏和	吉田友子	林 玲子	小川幸代	小川幸代
(高校四十三期)	宮本菊乃	東谷圭子	桔梗谷有規子	木村康子	木村康子
(高校四十四期)	田口裕之	平田信行	山本裕子	川瀬達也	川瀬達也
(高校四十五期)	谷口典子	吉田友子	岡本庸子	岡本庸子	岡本庸子
(高校四十六期)	小長典子	田中洋子	益本庸子	眞鍋佳津子	眞鍋佳津子
(高校四十七期)	谷 紀子	吉田友子	岡本庸子	岡本庸子	岡本庸子
(高校四十八期)	小川幸代	吉田友子	岡本庸子	岡本庸子	岡本庸子
(高校四十九期)	木村豪司	吉田友子	岡本庸子	岡本庸子	岡本庸子
(高校五十期)	山本真基子	中村訓子	岡本庸子	岡本庸子	岡本庸子
(高校五十一期)	海老原靖宏	中村訓子	岡本庸子	岡本庸子	岡本庸子

(高校定四期)	尾作 政	府上恵二
(高校定五期)	橋本昌員	仁木有久
(高校定六期)	木田政幸	田井久江
(高校定七期)	藤原幸子	諸井清二
(高校定八期)	内省吾	
(高校定九期)	小川 勝	高木清伸
(高校定十期)	宮崎省治	土田政治
(高校定十一期)	大谷 収	
(高校定十三期)	助永芳子	沖之島照久
(高校定十四期)	龟田清子	
(高校定十五期)	川合栄治郎	
(高校定十六期)	十三期会	木花楳子
(高校定十九期)	飯田悦弘	
(高校定二十一期)	咲間文昭	
(高校定二十二期)	内 秀機	池本 節
(高校定二十三期)	片岡 実	萬 真喜子
(高校定二十七期)	出口敏雄	
(高校定二十八期)	花田治雄	

# 尚和会協力金のお願い

会員の皆様から前年度も尚和会協力金を頂戴致しました。誠に有難うございました。

御承知の通り、尚和会の運営資金は、新会員の入会金と、皆様から頂戴致します尚和会協力金からなっております。尚和会として、推進しなければならない行事を、スケーズに遂行するためには、是が非でも、尚和会協力金が必要です。毎年続けて、御協力賜りますよう、くれぐれもよろしくお願ひ申し上げます。

## 尚和会協力金

### ご協力頂いた方々

(順不同 敬称略)

前号(六三年五月一日発行)の会報発行以前に協力金を頂戴しながら、掲載の方があ

十名ありました。お詫びし、お名前を掲載させていただき

一万円	山崎光子	三ツ矢嘉代子
(女九期)	矢萩瞳子	(女四期)
(女八期)	中村陽子	尼木久子
二千円	喜多岡敏之	小林三七子
(高三期)	小川尚子	安松和子
一千円	桑木千鶴子	五十嵐キヌエ
(女八組)	川上繕子	谷田探成
(高四期)	松田和子	井上敏子
(高五期)	堀江哲郎	真鍋正一
(高六期)	古川宏	林正宏
(高二期)	濱口いつ子	西川晴基
二万円	(女一期)	(高一期)
(女二期)	畠山恵美子	川上千鶴子
一万五千円	永井徳子	北之坊英美子
(女四期)	佐藤陽子	川上千鶴子
五千円	元山葉津子	西原成子
(女一期)	佐藤美智子	岡田良子
五千円	岡田貞子	大島澄子
(女一期)	朴木明石	新田栄恵
二万円	萬真喜子	豊田佳子
(定二十七期)	浜田美智子	合原正枝
(定二十二期)	北まち子	高木春子
(定二十二期)	演口美紗子	高木春子
(定二十二期)	萬真喜子	佐藤陽子
(定二十二期)	北まち子	由良昌子

(女三期)	宮本良子	宮崎圭子	梶田美智子	(女五期)	川原由多子	北村嘉子	庄司安月子	小池房代
(女四期)	楠智子	前田康子	鳩谷弘子	(女五期)	太田垣準子	傍矢悦子	太田垣準子	(女六期)
(高二期)	横尾光子	横尾光子	横尾光子	(高二期)	森繁子	久保悦子	森繁子	久保悦子
(高三期)	篠原滋昭	高橋冬代子	高橋冬代子	(高二期)	吉久保美都里	未光さく子	吉久保美都里	未光さく子
(高四期)	清水千鶴子	高野和子	高野和子	(高二期)	高田智恵子	赤崎豊	高田智恵子	赤崎豊
(高五期)	串田明典	春木和枝	春木和枝	(高二期)	廣田智恵子	中村定子	中村定子	廣田智恵子
(高六期)	岩波栄子	横道満子	横道満子	(高二期)	赤崎豊	中村定子	中村定子	赤崎豊
(高七期)	清水淑子	串田明典	串田明典	(高二期)	内海順夫	小川玲子	小川玲子	内海順夫
(女七期)	賀須井幸子	高橋冬代子	高橋冬代子	(高二期)	吉田万喜子	中村典子	中村典子	吉田万喜子
(女八期)	三好美代子	岸上道子	岸上道子	(高二期)	高木慶子	高木慶子	高木慶子	高木慶子
(女九期)	安井初美	戸井美喜子	戸井美喜子	(高二期)	高谷川春生	高谷川春生	高谷川春生	高谷川春生
(女十期)	吉澤幸子	峯田道子	峯田道子	(高二期)	長谷川春生	長谷川春生	長谷川春生	長谷川春生
(女十一期)	岩田和子	上田ヤスエ	上田ヤスエ	(高二期)	高木慶子	吉田道子	吉田道子	高木慶子
(高二期)	坂本修子	岸上道子	岸上道子	(高二期)	吉田万喜子	吉田万喜子	吉田万喜子	吉田万喜子
(高二期)	橋本悠紀子	吉澤幸子	吉澤幸子	(高二期)	浅原清美	大城和子	大城和子	浅原清美
(高二期)	近藤明子	岩田和子	岩田和子	(高二期)	内藤葉子	吉田浩子	吉田浩子	内藤葉子
(高二期)	河合信代	吉田道子	吉田道子	(高二期)	長岡郁江	吉田浩子	吉田浩子	長岡郁江
(高二期)	久保悦子	上田ヤスエ	上田ヤスエ	(高二期)	西村悠子	西村悠子	西村悠子	西村悠子
(高二期)	中野康夫	吉田道子	吉田道子	(高二期)	野村ミエ	吉田道子	吉田道子	野村ミエ
(高二期)	中野捷男	吉田道子	吉田道子	(高二期)	太田吉子	吉田道子	吉田道子	太田吉子
(高二期)	井内典子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	西野由美	吉田道子	吉田道子	西野由美
(高二期)	山野井茂登子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	前田ひろ乃	吉田道子	吉田道子	前田ひろ乃
(高二期)	辻野佳子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	松本正春	吉田道子	吉田道子	松本正春
(高二期)	岡田豊子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	栗田成子	吉田道子	吉田道子	栗田成子
(高二期)	中野康夫	吉田道子	吉田道子	(高二期)	西野由美	吉田道子	吉田道子	西野由美
(高二期)	東正美	吉田道子	吉田道子	(高二期)	前田ひろ乃	吉田道子	吉田道子	前田ひろ乃
(高二期)	林下由美子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	松島映子
(高二期)	吉田道子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	木梨順之	吉田道子	吉田道子	木梨順之
(高二期)	中山捷男	吉田道子	吉田道子	(高二期)	遠藤順子	吉田道子	吉田道子	遠藤順子
(高二期)	平田亘弘	吉田道子	吉田道子	(高二期)	橋本静子	吉田道子	吉田道子	橋本静子
(高二期)	岡田豊子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	長谷川民代	吉田道子	吉田道子	長谷川民代
(高二期)	中野捷男	吉田道子	吉田道子	(高二期)	輿水進	吉田道子	吉田道子	輿水進
(高二期)	井上由美子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	湯上美雪	吉田道子	吉田道子	湯上美雪
(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	井上由美子	吉田道子	吉田道子	井上由美子
(高二期)	栗田成子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	前田ひろ乃	吉田道子	吉田道子	前田ひろ乃
(高二期)	西野由美	吉田道子	吉田道子	(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	松島映子
(高二期)	前田ひろ乃	吉田道子	吉田道子	(高二期)	木梨順之	吉田道子	吉田道子	木梨順之
(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	遠藤順子	吉田道子	吉田道子	遠藤順子
(高二期)	栗田成子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	橋本静子	吉田道子	吉田道子	橋本静子
(高二期)	西野由美	吉田道子	吉田道子	(高二期)	長谷川民代	吉田道子	吉田道子	長谷川民代
(高二期)	輿水進	吉田道子	吉田道子	(高二期)	吉田道子	吉田道子	吉田道子	吉田道子
(高二期)	湯上美雪	吉田道子	吉田道子	(高二期)	井上由美子	吉田道子	吉田道子	井上由美子
(高二期)	井上由美子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	前田ひろ乃	吉田道子	吉田道子	前田ひろ乃
(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	松島映子
(高二期)	栗田成子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	木梨順之	吉田道子	吉田道子	木梨順之
(高二期)	西野由美	吉田道子	吉田道子	(高二期)	遠藤順子	吉田道子	吉田道子	遠藤順子
(高二期)	輿水進	吉田道子	吉田道子	(高二期)	橋本静子	吉田道子	吉田道子	橋本静子
(高二期)	湯上美雪	吉田道子	吉田道子	(高二期)	長谷川民代	吉田道子	吉田道子	長谷川民代
(高二期)	井上由美子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	吉田道子	吉田道子	吉田道子	吉田道子
(高二期)	前田ひろ乃	吉田道子	吉田道子	(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	松島映子
(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	木梨順之	吉田道子	吉田道子	木梨順之
(高二期)	栗田成子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	遠藤順子	吉田道子	吉田道子	遠藤順子
(高二期)	西野由美	吉田道子	吉田道子	(高二期)	橋本静子	吉田道子	吉田道子	橋本静子
(高二期)	輿水進	吉田道子	吉田道子	(高二期)	長谷川民代	吉田道子	吉田道子	長谷川民代
(高二期)	湯上美雪	吉田道子	吉田道子	(高二期)	吉田道子	吉田道子	吉田道子	吉田道子
(高二期)	井上由美子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	前田ひろ乃	吉田道子	吉田道子	前田ひろ乃
(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	松島映子
(高二期)	栗田成子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	木梨順之	吉田道子	吉田道子	木梨順之
(高二期)	西野由美	吉田道子	吉田道子	(高二期)	遠藤順子	吉田道子	吉田道子	遠藤順子
(高二期)	輿水進	吉田道子	吉田道子	(高二期)	橋本静子	吉田道子	吉田道子	橋本静子
(高二期)	湯上美雪	吉田道子	吉田道子	(高二期)	長谷川民代	吉田道子	吉田道子	長谷川民代
(高二期)	井上由美子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	吉田道子	吉田道子	吉田道子	吉田道子
(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	木梨順之	吉田道子	吉田道子	木梨順之
(高二期)	栗田成子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	遠藤順子	吉田道子	吉田道子	遠藤順子
(高二期)	西野由美	吉田道子	吉田道子	(高二期)	橋本静子	吉田道子	吉田道子	橋本静子
(高二期)	輿水進	吉田道子	吉田道子	(高二期)	長谷川民代	吉田道子	吉田道子	長谷川民代
(高二期)	湯上美雪	吉田道子	吉田道子	(高二期)	吉田道子	吉田道子	吉田道子	吉田道子
(高二期)	井上由美子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	前田ひろ乃	吉田道子	吉田道子	前田ひろ乃
(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	松島映子
(高二期)	栗田成子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	木梨順之	吉田道子	吉田道子	木梨順之
(高二期)	西野由美	吉田道子	吉田道子	(高二期)	遠藤順子	吉田道子	吉田道子	遠藤順子
(高二期)	輿水進	吉田道子	吉田道子	(高二期)	橋本静子	吉田道子	吉田道子	橋本静子
(高二期)	湯上美雪	吉田道子	吉田道子	(高二期)	長谷川民代	吉田道子	吉田道子	長谷川民代
(高二期)	井上由美子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	吉田道子	吉田道子	吉田道子	吉田道子
(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	木梨順之	吉田道子	吉田道子	木梨順之
(高二期)	栗田成子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	遠藤順子	吉田道子	吉田道子	遠藤順子
(高二期)	西野由美	吉田道子	吉田道子	(高二期)	橋本静子	吉田道子	吉田道子	橋本静子
(高二期)	輿水進	吉田道子	吉田道子	(高二期)	長谷川民代	吉田道子	吉田道子	長谷川民代
(高二期)	湯上美雪	吉田道子	吉田道子	(高二期)	吉田道子	吉田道子	吉田道子	吉田道子
(高二期)	井上由美子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	前田ひろ乃	吉田道子	吉田道子	前田ひろ乃
(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	松島映子
(高二期)	栗田成子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	木梨順之	吉田道子	吉田道子	木梨順之
(高二期)	西野由美	吉田道子	吉田道子	(高二期)	遠藤順子	吉田道子	吉田道子	遠藤順子
(高二期)	輿水進	吉田道子	吉田道子	(高二期)	橋本静子	吉田道子	吉田道子	橋本静子
(高二期)	湯上美雪	吉田道子	吉田道子	(高二期)	長谷川民代	吉田道子	吉田道子	長谷川民代
(高二期)	井上由美子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	吉田道子	吉田道子	吉田道子	吉田道子
(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	木梨順之	吉田道子	吉田道子	木梨順之
(高二期)	栗田成子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	遠藤順子	吉田道子	吉田道子	遠藤順子
(高二期)	西野由美	吉田道子	吉田道子	(高二期)	橋本静子	吉田道子	吉田道子	橋本静子
(高二期)	輿水進	吉田道子	吉田道子	(高二期)	長谷川民代	吉田道子	吉田道子	長谷川民代
(高二期)	湯上美雪	吉田道子	吉田道子	(高二期)	吉田道子	吉田道子	吉田道子	吉田道子
(高二期)	井上由美子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	前田ひろ乃	吉田道子	吉田道子	前田ひろ乃
(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	松島映子
(高二期)	栗田成子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	木梨順之	吉田道子	吉田道子	木梨順之
(高二期)	西野由美	吉田道子	吉田道子	(高二期)	遠藤順子	吉田道子	吉田道子	遠藤順子
(高二期)	輿水進	吉田道子	吉田道子	(高二期)	橋本静子	吉田道子	吉田道子	橋本静子
(高二期)	湯上美雪	吉田道子	吉田道子	(高二期)	長谷川民代	吉田道子	吉田道子	長谷川民代
(高二期)	井上由美子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	吉田道子	吉田道子	吉田道子	吉田道子
(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	木梨順之	吉田道子	吉田道子	木梨順之
(高二期)	栗田成子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	遠藤順子	吉田道子	吉田道子	遠藤順子
(高二期)	西野由美	吉田道子	吉田道子	(高二期)	橋本静子	吉田道子	吉田道子	橋本静子
(高二期)	輿水進	吉田道子	吉田道子	(高二期)	長谷川民代	吉田道子	吉田道子	長谷川民代
(高二期)	湯上美雪	吉田道子	吉田道子	(高二期)	吉田道子	吉田道子	吉田道子	吉田道子
(高二期)	井上由美子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	前田ひろ乃	吉田道子	吉田道子	前田ひろ乃
(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	松島映子
(高二期)	栗田成子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	木梨順之	吉田道子	吉田道子	木梨順之
(高二期)	西野由美	吉田道子	吉田道子	(高二期)	遠藤順子	吉田道子	吉田道子	遠藤順子
(高二期)	輿水進	吉田道子	吉田道子	(高二期)	橋本静子	吉田道子	吉田道子	橋本静子
(高二期)	湯上美雪	吉田道子	吉田道子	(高二期)	長谷川民代	吉田道子	吉田道子	長谷川民代
(高二期)	井上由美子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	吉田道子	吉田道子	吉田道子	吉田道子
(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	木梨順之	吉田道子	吉田道子	木梨順之
(高二期)	栗田成子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	遠藤順子	吉田道子	吉田道子	遠藤順子
(高二期)	西野由美	吉田道子	吉田道子	(高二期)	橋本静子	吉田道子	吉田道子	橋本静子
(高二期)	輿水進	吉田道子	吉田道子	(高二期)	長谷川民代	吉田道子	吉田道子	長谷川民代
(高二期)	湯上美雪	吉田道子	吉田道子	(高二期)	吉田道子	吉田道子	吉田道子	吉田道子
(高二期)	井上由美子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	前田ひろ乃	吉田道子	吉田道子	前田ひろ乃
(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	松島映子
(高二期)	栗田成子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	木梨順之	吉田道子	吉田道子	木梨順之
(高二期)	西野由美	吉田道子	吉田道子	(高二期)	遠藤順子	吉田道子	吉田道子	遠藤順子
(高二期)	輿水進	吉田道子	吉田道子	(高二期)	橋本静子	吉田道子	吉田道子	橋本静子
(高二期)	湯上美雪	吉田道子	吉田道子	(高二期)	長谷川民代	吉田道子	吉田道子	長谷川民代
(高二期)	井上由美子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	吉田道子	吉田道子	吉田道子	吉田道子
(高二期)	松島映子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	木梨順之	吉田道子	吉田道子	木梨順之
(高二期)	栗田成子	吉田道子	吉田道子	(高二期)	遠藤順子	吉田道子	吉田道子	遠藤順子
(高二期)	西野由美	吉田道子	吉田道子	(高二期)	橋本静子	吉田道子	吉田道子	橋本静子
(高二期)	輿水進	吉田道子	吉田道子	(高二期)	長谷川民代	吉田道子	吉田道子	長谷川民代
(高二期)	湯上美雪	吉田道子	吉田道子	(高二期)	吉田道子	吉田道子	吉田道子	吉田道子
(高二期)								

(定十二期)	中村久雄
一千円 (女二期)	酒井嘉寿子
坂本英子	末藤敏子
中島麗子	川上幸子
(女二期)	桑原豊子
君塚節子	阿部揚子
神保和子	鈴瀬綾子
中森やよひ	小倉美弥子
山口恭子	川口浜子
(女二期)	山田堯子
井上百合子	沢田恒子
小倉澄子	高橋芳子
門 律子	吉野良子
佐藤 春	古川寿美江
芝池通子	竹中和子
竹下幸子	上野妙子
土井美智子	木場洋子
松井夏実子	酒井百合子
阪口富美子	佐藤有紀子
澤田晃子	神野紺佐子
田内弥生	高木三和子
田口慶子	辻 靖子
土屋須美子	徳力綏子
中野せつ子	長岡利子
平山美津子	渡辺 順
松尾昭子	樋口文子
矢島節子	伊藤久子
鷲埜昭子	奥野信美
(女五期)	佐野幸子
榎本富美子	林 道子
川野悦子	宮野信子
室谷玲子	森岡安子
矢野愛子	谷沢和子
山田民恵	桐山澄子
(女六期)	佐藤千代子
斎藤滋子	吉田紀美子

(女八期)	河内洋子	白井艶子	大野富士子	小鳩京子	渡辺良子	生駒昌子	桑木千鶴子	進藤鉢代	勝本昭子
(高一期)	田辺光子	高橋董子	津村芳子	矢口里子	津田経子	波多野良子	星野寛子	波多野良子	漆崎美津江
(高二期)	間嶋紀子	原田祥子	吉富義洋	山崎喜子	橋本伶子	湯浅敦子	井ノ口美美代	和田英子	
(高三期)	吉富義洋	原田祥子	吉富義洋	山崎喜子	井ノ口美美代	和田英子			
(高四期)	大岩光江	盛野安子	木下成子	坂上祐一郎	奥田閑子	大岩光江	星野寛子	波多野良子	
(高五期)	奥田閑子	川上繕子	中川恭子	永谷二郎	木嶋茂	大岩光江	井ノ口美美代	和田英子	
(高六期)	木嶋茂	前原崇子	坂本弘子	三輪三郎	森田千加子	奥田閑子	和田英子	漆崎美津江	
(高七期)	森田千加子	坂本弘子	高九期)	豊田千代	大内雍子	木嶋茂	吉本孝義	吉本孝義	
(高八期)	大内雍子	星 加恵子	星 澄	豊田千代	川添安洋	坂上祐一郎	白井礼子	白井礼子	
(高九期)	川添安洋	藤沢幸子	瀬戸貴弥	斎藤孝基	藤上喜久子	永谷二郎	木嶋茂	大岩光江	
(高十期)	藤上喜久子	東口量子	山本潔	斎藤孝基	大喜多道子	三輪三郎	吉本孝義	吉本孝義	
(高十一期)	大喜多道子	北奥博子	北奥博子	大西明代	高九期)	豊田千代	坂本弘子	坂本弘子	
(高十二期)	高九期)	野田美惠子	野田美惠子	筒井孝子	高九期)	坂本弘子	高九期)	高九期)	
(高十四期)	筒井孝子	波多野康子	岡本豊子	星野祐子	高九期)	高九期)	高九期)	高九期)	
(高十五期)	波多野康子	裏辻康秀	岡本豊子	大西順子	高九期)	高九期)	高九期)	高九期)	
(高十六期)	裏辻康秀	大西順子	高九期)	青木和代	(高十八期)	高九期)	高九期)	高九期)	
(高十七期)	星野祐子	青木和代	高九期)	高九期)	(高十八期)	高九期)	高九期)	高九期)	
(高十八期)	大西順子	高九期)	高九期)	高九期)		高九期)	高九期)	高九期)	

## 昭和61年度決算報告

(自61年5月1日至62年4月30日)

收入總額 ¥6,739,383

支 出 總 額 ￥5,167,320

差引残高 ￥1,572,063

## 〈一般会計〉

	科 目	予 算	決 算	増 差 額	備 考	62年度予算
収入の部	前期繰越金	1,313,059	1,313,059	0		1,572,063
	入会金	1,842,000	1,842,000	0	3,000円×614名	1,875,000
	尚和会協力金	1,300,000	1,718,600	418,600		1,300,000
	広告収入	0	485,500	485,500		0
	雑 収 入	100,000	29,824	△ 70,176	利 息	100,000
	名簿収入	300,000	1,350,400	1,050,400		0
合 計		4,855,059	6,739,383	1,884,324		4,847,063

支 出 の 部	事務費	700,000	894,535	△ 194,535	(名簿発送費)	800,000
	慶弔費	100,000	61,000	39,000		100,000
	会館維持費	50,000	0	50,000		50,000
	卒業生記念品代	70,000	66,150	3,850		70,000
	会報発行費	2,400,000	2,860,990	△ 460,990	増頁・郵送費	2,500,000
	総会費	700,000	664,645	35,355		500,000
	名簿整理費	150,000	120,000	30,000		150,000
	積立金	500,000	500,000	0	特別会計へ	500,000
	予備費	185,059	0	185,056		177,063
	合計	4,855,059	5,167,320	△ 312,261		4,847,063
次期繰越金		1,572,063				

〈特別会計〉

科 目	繰 越 金	取 入	支 出	次期繰越金
尚和会積立金	4,183,088	503,460	141,368	4,545,180
名簿発行準備基金	671,238	133,629	0	804,867
尚和会事業積立金	783,060	147,883	3,662	927,281
合 計	5,637,386	784,972	145,030	6,277,328
50周年記念事業基金	3,000,000	0	3,000,000	0
50周年記念事業費	0	13,374,187	5,561,379	7,812,808

\*50周年記念事業費の収入は、50周年記念事業基金及び50周年記念募金の合計

\*50周年記念事業費の支出は、園整備費(学園への寄附金)、50周年記念事業費(学園並びに50周年記念事業費)

## 各期代表理事

期	氏名	電話	期	氏名	電話
女 1	奥村富美子	06-864-0617	高 34	山口誠	06-872-4682
女 2	大野敦子	06-852-4865	高 35	川嶋道代	06-832-7930
女 3	原田純子	06-854-1632	高 36	安藤昌博士	06-854-5097
女 4	小林三七子	0797-71-1064	高 37	味元一広	06-854-7907
女 5	井上敏子	06-848-3299	高 38	須英泰彦	0727-52-6441
女 6	藤井紀子	0797-81-0761	高 39	藤崎彦二	06-849-0899
女 7	進鈴	06-832-3284	定 3	上府喜	06-852-7122
女 8	中陽	06-844-1570	定 4	橋昌孝	06-854-0234
高 1	安道	0797-86-3831	定 5	上本喜	06-856-2515
高 2	満子	06-862-7360	定 6	川内憲	06-849-4773
高 3	谷探	06-314-0550	定 7	月村一毅	06-976-0280
高 4	小成	06-322-8353	定 8	田谷昌	0720-44-2311
高 5	宮尚	06-852-4859	定 9	大長芳	06-844-0473
高 6	一色	06-849-5906	定 10	助修	06-832-7675
高 7	浦辺	0798-26-5531	定 11	永信	06-852-0475
高 8	森司	06-872-3329	定 12	部造	0727-38-3366
高 9	小武	0727-62-5143	定 13	田吉	0727-28-1497
高 10	唐渡	0727-52-4548	定 14	浦北	06-333-4833
高 11	田中	06-852-2923	定 15	前政	06-855-8451
高 12	谷尚	06-855-5858	定 16	中健	0727-22-8153
高 13	細和	06-849-6879	定 17	飯悦	06-855-3440
高 14	田嘉	06-853-3339	定 18	輝洋	0727-21-1124
高 15	大光	06-841-8135	定 19	助惣	06-872-1473
高 16	秋日	075-962-6064	定 20	堀博	06-333-5948
高 17	福育	06-333-6636	定 21	高富	0727-57-0457
高 18	北悟	06-843-1386	定 22	日喜	0727-22-5376
高 19	広則	06-855-2263	定 23	大勝	06-862-7083
高 20	木由	06-854-6868	定 24	片重	06-853-6312
高 21	清苗	06-852-7056	定 25	稻保	0727-28-0955
高 22	佐早	06-848-3071	定 26	真寒	06-385-6190
高 23	文泰	06-376-0721	定 27	天涯	06-607-0580
高 24	後正	06-303-8026	定 28	松野	06-333-5761
高 25	井健	06-832-4181	定 29	下川	06-863-2565
高 26	金江	06-852-1224	定 30	大畠	06-334-1243
高 27	碇敏	06-875-5524	定 31	高幸	06-875-1626
高 28	田倫	06-854-6370	定 32	繩富	0727-61-3323
高 29	木慶	06-853-9213	定 33	清美	06-864-6366
高 30	櫻香	06-393-7216	定 34	浜清	06-863-1216
高 31	尾世	06-841-6971	定 35	井賢	06-863-0058
高 32	尾谷	06-862-0049	定 36	水島	
高 33	池一		定 37	部渡	

役員選挙のお知らせ

尚和会の役員は、総会で選出され、その任期は二年です。

今年は、二年目の改選になりますが、別に立候補者がいれば選挙を行います。立候補される方は、総会七日前迄（五月八日）に左記に書面で立候補を申出て下さい。

現役員会の推せんする候補者について信任を問うことになりますが、別に立候補者が

あります。役員の定数は、会長一名、副会長若干名、会計二名、会計監査二名です。役員選挙は、原則として前期の役員（会長、副会長、幹事、及び会計）の協議により定めた候補者につき信任を求める従来の慣例による。

尚和会役員選舉規定(抄)

役員選挙は、原則として前期の役員（会長、副会長、幹事、及び会計）の協議により定めた候補者につき信任を

前条の他、各役員について総会七日前迄に前期の会長（以下単に会長とする）に対し書面で立候補の届出があつたときは、以下の定めによる。

第六条 候補者が定数を超える役員の候補者及びその推せん者の代表は、総会会場で選挙管理委員の定めるところに従つて投票依頼についての演説をしなければならない。（届出先）

豊中市中桜塚四一  
桜塚高等学校内  
尚和会会长 高津 弘寛